

斜に構えて尿路結石を切る！ 必ず遭遇するイレギュラーケースにどう対処するか？

企画にあたって

尿路結石は泌尿器科医にとって日常診療で遭遇する疾患ですが、診断・治療に専門的知識と技術が必要な泌尿器科特有の疾患でもあります。診療ガイドライン（GL）や治療マニュアルが刊行されていますが、その特性上、標準的な見解やレギュラーケースに対する内容が記載されており、実臨床の場で必要な情報が必ずしも網羅されているわけではありません。現在、尿路結石診療ガイドラインが改訂作業中ですが、GL作成マニュアルに従っており、同様の傾向となる可能性がきわめて高いと考えられます。

さて、「斜に構える」の語源は、「剣道で刀を斜めに構える」です。剣道には、上段・中段・下段という構えがあり、“中段”という構えは相手に向かって刀を斜めに延ばした状態であることから、その構えを「斜に構える」と呼ぶようになり、さらに“中段”の構えが試合前にお互いが向き合う際の基本姿勢でもあり、一番「隙」がない構え方であることから、「改まった態度をとる」「身構える」というのが本来の意味だそうです。泌尿器科医にとっての“剣”はメスと内視鏡ではないでしょうか。また、剣道の“斬る”は尿路結石においては「切石術」をイメージさせるのではないのでしょうか。

本誌 2017 年 8 月号で、「尿路結石に対する外科的治療—Stone free 100%を目指して」が企画され、上部尿路内視鏡操作に必要な解剖や各々の手術手技の総論的な内容が特集されました。

本特集ではさらに細部にわたり、GL と治療マニュアルから一歩も二歩も踏み込み、泌尿器科医にとって避けられない、また、泌尿器科医にしか対処できない尿路結石イレギュラーケースについて、より具体的かつ実践的に対処できる情報をエキスパートの皆様に解説していただきました。本特集が尿路結石診療に携わっておられる皆様の一助となり、伝承される若手医師の刺激となれば幸いです。

金沢医科大学
泌尿器科学講座

宮澤 克人